

私の目指す社会

名古屋市立白水小学校

六年

江崎 えさき

晴香 はるか



私は誰もが明るく希望をもって生きることが
できる社会になってほしいです。なぜなら明
るく希望を持つことで、自殺者数が減り、その
家族の人たちも悲しまずに済むからです。

鉄道関係の仕事に就いている父からよく聞
く言葉があります。それは、

「今日も、人身事故があった」

という言葉です。家族や友達、事故に関わる人
たちの心に一生消えない傷を植え付けること
になってしまいます。父の言葉の通り、鉄道で
の投身自殺についてのニュースなどの報道は
後を絶ちません。

そんな中、学校の授業で薬物乱用防止につい
て警察の方から学ぶ機会がありました。

学んだことは、薬物は正しく使えば害はない
ということです。実際にケシの実は、アンパン
の上に乗っていたり、大麻の種の汁はオリーブ
オイルよりも美味しい油になったりするそう
です。他にも七味唐辛子にも使われていると聞
き、私は薬物＝危険な植物だと思っていたので、

身の回りで活用されていることに驚きました。

一方で、薬物はやはり、危険な側面もありま
した。一度薬物を乱用すると、一生、元通りに
は戻れない、ゲームのように人生はリセットす
ることができないということです。薬物を乱用
することで、幻覚が見えたり、脳や心、心身に
異常が現れたりし、生きている希望が失われて
しまうそうです。

こうしたことを学び、人生では、きっと楽し
いことがたくさんあるはずなのに、なぜ薬物に
手を染めてしまうのか不思議に思いました。薬
物は身の回りで役に立っているものもあるけ
れども、使い方によっては、取り返しのつかな
いことになるということを知りました。

薬物乱用の恐ろしさを知った今でも、やはり
私は、誰もが明るく希望をもって生きることが
できる社会になってほしいという思いをもっ
ています。お金儲けのためだけに、薬物を安易
に売りつけるような人がいなくなると世
の中になることを強く望みます。薬物を売る人

がいるから、薬物に手を染める人が現れ、明る
い希望を持つことができない人たちが出てく
るからです。その人たちも被害者の一員なので
はないかと思えます。

そこで、誰もが薬物の怖さを理解し、自分の
体を守るのは自分自身であると強く自覚をも
ち、甘い誘惑には、きっぱり断ることが必要で
す。そうした強さを誰もがもち得ることができ
る世の中というのは、困ったことがあったら助
け合う、助け合うことはお互い様という寛容な
心をもつことから始まるのではないかと思
います。その先に、誰もが明るく希望を持って
生きることのできる社会が形成されていくの
だと信じています。